

# 衆議院法務委員会ニュース

平成 20.3.25 第 169 回国会第 4 号

3月25日、第4回の委員会が開かれました。

## 1 裁判所職員定員法の一部を改正する法律案（内閣提出第16号）

- ・鳩山法務大臣、政府参考人及び最高裁判所当局に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。  
（賛成 - 自民、民主、公明、社民、滝実君）

（質疑者及び主な質疑内容）

### 柴山昌彦君（自民）

- ・法曹人口全体の増加に対し裁判官の増加が見合っていないのではないかと考えるが、裁判官の人的体制の整備について伺いたい。
- ・裁判員制度が平成21年5月までに実施されるが、同制度の導入に当たって必要となる裁判所の人的体制について伺いたい。
- ・ADR、準司法手続、仲裁といった手続があるなかで、紛争解決手続における裁判所の位置付けについて最高裁判所及び法務省の意見を伺いたい。

### 大口善徳君（公明）

- ・裁判員裁判の実施に当たっては、公判前整理手続で鑑定の手続を適正に行うなど、裁判員に負担のかからない審理計画を立てる必要があると思うがどうか。
- ・裁判員制度の実施に万全を期するため裁判官の員数を十分に確保する必要があると思うがどうか。
- ・法曹人口に関する法務大臣の私的勉強会において、法科大学院の在り方についても議論を行うとともに文部科学大臣と法科大学院に関する意見交換を行う必要があると思うが法務大臣の見解を伺いたい。

### 石関貴史君（民主）

- ・司法試験合格者3,000人は多すぎると法務大臣の発言の真意を伺いたい。
- ・法務省庁舎の工事のフェンスに「裁判員参上」という看板を掲げているが、どのような意図を持ってこのような看板を掲げているのか。
- ・裁判所は、裁判官及び職員の不祥事を防止する取組を行っているのか。
- ・日本語が話せない外国人が犯罪を起こした場合に捜査の過程や裁判でどのような手当をしているのか。

### 細川律夫君（民主）

- ・地方裁判所・家庭裁判所の本庁と支部の間では、裁判官一人当たりの事件数に格差があるため、支部においては、裁判官の負担が重くなり、拙速な事件処理がされているのではないかと。
- ・法務省・検察庁は、裁判員制度の広報を、どのように行おうとしているのか。
- ・死刑がある限り、裁判員制度を施行すべきでないという意見について、法務大臣はどのように考えているのか。
- ・終身刑を創設すべきという意見について、法務大臣はどのように考えているのか。

### 保坂展人君（社民）

- ・沖縄で発生した米国海兵隊員による少女暴行事件について、事件後、法務大臣はシーファー駐日米国大使と会談したい旨発言したことはあるのか。また、駐留米軍等の問題について、今後同大使と会談する考えはあるか。
- ・徳島刑務所の医師による診療行為の問題について、刑事施設視察委員会の委員長は現在どのような発言をしているのか。
- ・志布志（鹿児島県議選）事件の国家賠償訴訟の判決で、接見内容を聴取して調書化したことが問題とされたことについて、法務大臣はどう受け止めているか。また、取調べの全面可視化についてはどのように考えているのか。

### 滝実君（無）

- ・検察庁の取調べの録音・録画の試行の検証において、取調べの真相解明機能に及ぼす影響について意見が分かれているが、取調べの録音・録画が捜査に与える影響について、法務省はどのように考えているのか。
- ・裁判員制度において、裁判員が公明・正大な抽選をもって選任されたと判断する主体はどこののか。また、裁判員に対して事件の概要説明を行うのは、当該事件の担当

裁判官であるのか。

- ・裁判員制度の対象となる裁判においては、集中的に公判を行うこととなるため、受任弁護士が当該事件に専念することによる収入への影響が懸念されるが、この点に関する法務省と弁護士会との協議の内容を伺いたい。